

業務システムの最適解を目指す

Windowsシステム 拡充プロジェクト

株式会社OSK Visual Finder

営業報告書、売上表、各種申請書など、企業にはさまざまな文書が存在している。企業がさらなる発展を目指すには、これら文書を有効に活用する必要がある。そのためには、統合的に文書を管理し、必要な文書を即時に検索できなければならない。今回は、これらを実現することができる文書管理システムについて紹介しよう。

さまざまな企業内文書の管理を支援

あなたが勤めている企業では、きちんと文書管理ができているだろうか。さまざまな文書が散在していて必要な文書がすぐにみつからないなんてことはないだろうか。そんなことがないように企業内の文書を効率よく管理することを目的に開発されたのが、今回紹介する「Visual Finder」だ。

Visual Finderは、.NET Framework対応の文書管理システム。簡単な設定で文書の登録を行ない、フォルダごとに文書を分類して管理できる（フォル

ダは5階層まで作成可能）。登録した文書は、ファイル名やタイトルなどの属性情報による検索や、全文検索ですぐに探し出せる。

このシステムのファーストバージョンが登場したのは、今から約10年前。ASP（VBScript）で開発したという。開発担当の松浦英明氏は、その当時から次のように振り返る。

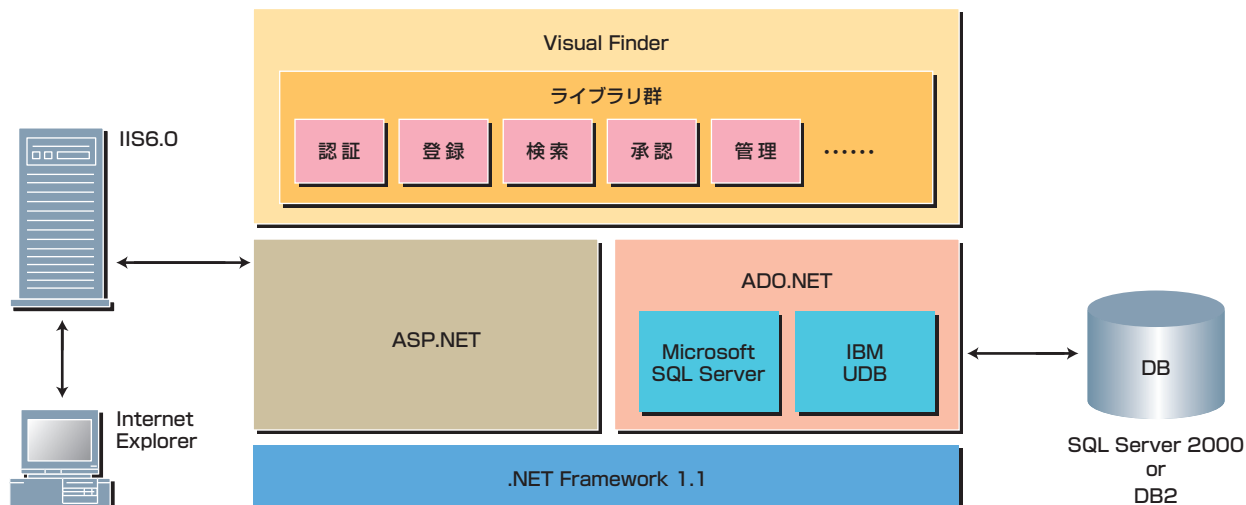
「Visual Finderをリリースした当初は、正直いって売れませんでした。というのは、当時はまだシステムを導入して文書管理を行なうという意識が定着していなかったからです。なんとか

ユーザーにシステム導入のメリットを理解してもらうために、営業担当者だけでなく私もいっしょに営業回りをしました」

しかし、ファーストバージョンをリリースして3年後、ある出来事がきっかけで転機を迎える。

「ちょうどそのころ、ISO9000の取得ブームが起きました。紙文書を電子化して管理しなければ、当然ISO9000を取得することはできません。そこで、ISO9000取得のために、工場や研究所を中心にVisual Finderが導入されはじめました」

図1：Visual Finder 4.0の内部構造



その後、電子化による文書管理も浸透ははじめ、いまでは、工場や研究所だけでなく一般の大手～中小企業まで、1000以上の企業に導入されている。

バージョン4.0開発秘話

Visual Finderが.NET Frameworkに対応したのは、バージョン4.0をリリースした2003年だ。.NET Frameworkはバージョン1.1に対応。WebサーバーはIIS6.0、データベースはSQL Server 2000、DB2をサポートしている。

バージョン4.0では、文書の登録/検索のほか、ISO文書管理（文書の申請や承認など）、認証など、さまざまな機能が新たに搭載され、メンテナンスを考慮して各機能ごとにライブラリ化されている（図1）。

また、バージョン4.0では画面のデザインを見やすいものに一新したという。しかし、これにより思わぬ苦勞が生じたとか。

「以前のバージョンで採用していた画面はとにかく見づらかったので、.NETへの移行作業や、新機能の実装よりも、まず画面デザインのリニューアルを優先して作業を進めました。しかし、先に作成した新たな画面のデザインを、.NET Frameworkの標準コントロールだけで実現するのは不可能でした。

そのため、標準コントロールを貼り付けた際に自動生成されるコードを修正したり、ユーザーコントロールを作成して貼り付けるなどして、なんとか画面デザインのリニューアルを実現しました。この作業は相当苦勞しましたね」

また、フォルダやファイルの一覧表示などで利用されているツリービュー機能は、.NET Frameworkを利用せずに自前で作りこんだという。

「サーバーサイドに値を返すことなく、クライアント側で処理を完結したいケースがあります。たとえば、ボタンを押すとファイルを並べ替えるような場合です。.NET Frameworkの機能を利用すると、ファイルを並べ替えたときにポストバックされ、どうしても画面がチラついて見えてしまうのです。そこで、クライアントの操作がすべて終わってから値をサーバーに返すように、JavaScriptで実装しています。流れとしては、サーバーサイドからデータを一括してクライアントに持ってきておいて処理し、最後にサーバーサイドへ返すということになります」

さらなる進化を目指して

最後に、Visual Finderの今後の展開について聞いてみた。

「Visual Finderは時代のニーズに



株式会社OSK
SL本部 SLセンター
ドキュメントソリューション課
松浦 英明

応じて進化を遂げてきました。今後も.NET Framework 2.0、SQL Server 2005への対応はもちろんのこと、日本版SOX法やe文書法などの法関連についても機能強化していく予定です。また、ユーザー数が一万人以上の規模でも効率よく文書の管理/検索ができるように機能強化を図っていく予定です。そのほか、さまざまなユーザーのニーズにも対応していきます。Visual Finderの進化にご注目ください」

拡充のポイント

- ・ 文書の登録/検索のほか、ISO文書管理機能などを搭載し、業態を問わない電子文書管理を実現
- ・ 文書を最大5階層までのフォルダに分類し、Windowsエクスプローラのように管理することができる